

戸山77期生通信 第10号

2023.1.31 創刊

～ご挨拶～

明けましておめでとうございます。1年生のみなさんは激闘の2学期を終え、年末年始少しはゆっくり過ごせたでしょうか。家の大掃除は大変でしたか？このような機会にぜひ少しでも家族孝行できたらいいですね。

さて、年末は熱狂に熱狂を呼んだサッカーFIFAワールドカップが行われました。一部の生徒からは「昨日の夜、起きて観ていました！」なんていう声も聞きました。ちょうど期末考査期間とぶつかっていたこともあり、葛藤があった人もいたでしょう。目をこすりながら乗り切ったことと思います。

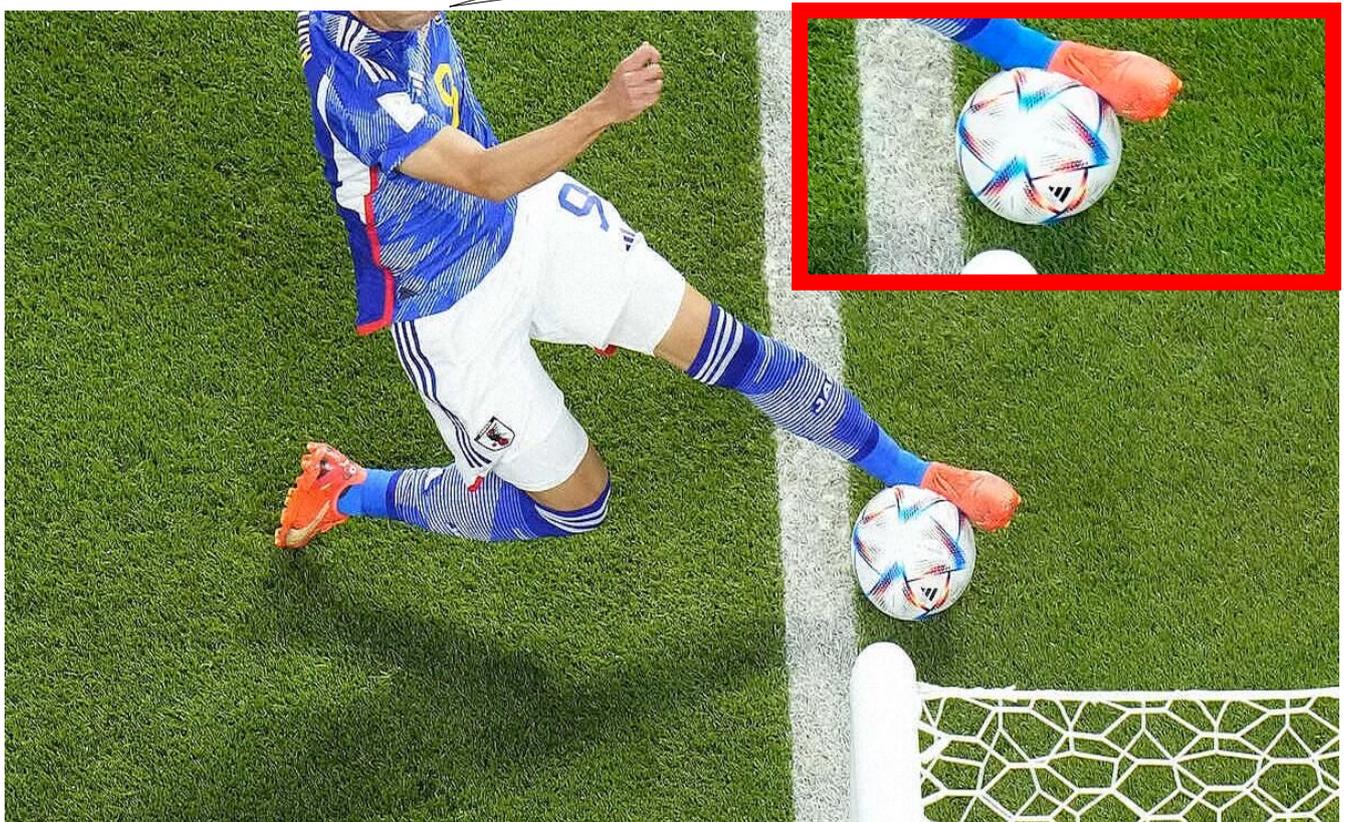
特に印象に残ったのは、やはり「三苦の一ミリ」！！日本代表をグループリーグ突破（スペイン撃破）に導いた絶妙なパスは、ラインを出たか出ないか高性能カメラでもわからないほど微妙なプレーでした。誰もがあきらめてしまいそうな場面、三苦選手が体を投げ出して懸命に足を伸ばしたことで勝利を手繰り寄せました。決して奇跡なんかではありません。

我々1学年担任団は、急遽『緊急学年通信』を各教室に掲示し、生徒たちの奮起を促しました。彼らは『最後まであきらめずにやり切る姿勢』の重要性を感じてくれたことと思います。きっと、学業や部活動にも生かされることでしょう。

次頁は昨年12月13日に行われた「卒業生講演会」の様子です。生徒たちが書いてくれた実際の声と合わせてご覧ください。

勝負の分け目は髪一本分だ！

(緊急通信より)



☆☆卒業生講演会を終えての生徒の声☆☆

1. 平野さん(株式会社代表取締役)

- 学生のうちに、自分の興味のあることややりたいことをやって広い視野で世界をみることで、なりたいものが見つかることができました。
- 文系・理系に関係なく、幅広い知識&教養を身につけていくことは、将来の選択肢の広がりにつながると教えてもらった。日々の勉強にしっかりとやる気をもって向かっていきたい。
- 農地でエビ養殖という道への探究心がすごくて尊敬した。戸山の卒業生が社会で活躍されていることから、自分もそうなれるかもしれないと思った。様々なことを知り、経験する人生にしたい。
- 「目的・宣言・あきらめない」この3つを大切に努力して、今があるのだと思った。とても尊敬します。

2. 豊島さん(県立こども医療センター新生児科部長)

- 30分の講演を通して、命の大切さ、重みを改めて感じました。普段知ることのない新生児の医療現場で起きていることを、実体験に基づいて話してくださったので、その大変さや物語を知ることができました。
- 「子供を大切にできない国に未来はない！」響きました。
- 医師になった理由が明確で尊敬しました。自分も将来人を助ける仕事に就きたいと思っているので、明確な目標に向かって頑張ろうと思いました。
- 自分がもし患者さんだったら、とか親だったら・・・などより身近に考えさせられました。『コウドリ』は漫画もドラマも観ていて、NICUや産婦人科の在り方なども以前から考えていたので、実際に携わっていらっしゃる方のお話を聞いてうれしかったです。「医師」という職業や「医療」について興味がわきました。

3. 木村さん(文部科学省・大臣官房審議官)

- 人生は「楽しい」ことばかりではないが、みんなで「楽しむ」ことはできる！と考えが変わりました。
- 木村さんは、自分が正しいと思うことを他人の協力を得ることにより実現していて、すごいなと思いました。講演の後半に見た動画から、発案者+数名の協力者がいなければ物事は始まらないということ、このたった数名から大きなことができるのではないかとことを学びました。
- 周りを巻き込むこと、自分の世界を広げる意味で巻き込まれることは大切だと知りました。また、「自分が必ずしもリーダーである必要はない」という考えには共感しました。
- 「自分のことを理解してくれる人が絶対1人はいるからあきらめないで」という言葉が心に刺さった。

